発表者：兪　秀娟

2015 年 3 月 18 日

発表テーマ：日本・中国における独居高齢者・高齢者夫婦のみ世帯の居住支援に関する研究(進捗状況報告)

要旨：

中間報告である本稿では、日本と中国の両国における独居高齢者・高齢者夫婦のみ世帯の居住支援の現状と課題を明らかにするために、まず先行文献より日本・中国の高齢者の人口動向や高齢化特徴および独居高齢者・高齢者夫婦のみ世帯の居住現状と課題および地域での取り組みに関する文献を整理した。

その結果、中国は、先に高齢化社会に突入した日本と類似して、65 歳以上の高齢化人口および独居高齢者・高齢者夫婦のみ、いわゆる「空巣高齢者」世帯数が急増していく傾向にあることと、「空巣高齢者」は、健康リスクの増加・貧困率の上昇・社会的孤立・孤独死などの社会問題に直面していることが明らかになった。そして、高齢者が社会的に孤立することなく、地域で安全・安心で暮らしていけるような社会の実現を図っていくために、日本も中国も様々な支援サービスを提供し、地域での取り組みが模索されていることが伺えた。

「空巣高齢者」への支援に関する地域の取り組みについて、中国の上海市では、ボランティア団体のメンバーから結成された高齢者友愛チームによってマンツーマン方式の「5＋X 見守り生活支援サービス」が提供されており、高齢者のニーズに応じた介護サービスの利用を可能にするために関係部門との連携が図られている。また、高齢者のみ世帯において、緊急通報システムや、地域毎に電話相談「ホットライン 962200」を設置し、高齢者の不安を取り除き生活の質の向上や自宅での自立的生活の維持支援を目指している。さらに、一部の社区では、養老年金の月額が 650 元以下の場合、訪問介護サービス料は区や鎮政府が負担するという独居高齢者に対する介護サービス補助金の支給が行われている。

北京市では、80 歳以上の独居高齢者に対して 3 元/人/日の食事配送サービス補助金が支給される。また、東成区では、高齢者の多様化したサービスに対する需要(X)に対して、政府、企業、事業団体、社会組織、近隣住民、ボランティア、社区など 7 種類の異なるサービス提供を活用し、高齢者が迅速に便利な在宅支援サービスを受けることが可能になる「7＋X」のサービスを提供している。また、東成区では、社区ボランティア協会を十分に活用し、在宅支援サービスボランティアの登録制、育成訓練、支援の必要性が高い高齢者のみ世帯に対して、心理的に目を配り、精神的慰めを与えるとともに、近所の相互扶助“一帮一(1 人が 1 人を助ける)”という相互助け合いや高齢者同士の相互扶助の推進を図っていることが明らかになりつつある。

しかし、これまで中国の「空巣高齢者の居住支援に関する文献は散見できる程度であり、特に高齢者らの暮らし場に注目しながら支援を行う際に具体的にどのような課題が存在しているか明らかにしたものは見当たらない。また、中国の高齢者を取り巻く状況は、経済格差や地域格差によって「空巣高齢者」への支援のやり方が地域ごとに異なっており、一言で結論づけるのは非常に難しい現状にある。

そのため、本研究では、まず独居高齢者・高齢者夫婦のみ世帯に居住支援が進んでいる日本での実態調査を実施し、その実態を更に明確にした上で、出身地である中国の福建省(沿海地域)の現地でのヒアリング調査を通じて、中国の政府関係者や支援専門職および高齢者本人を対象にしたヒアリング調査などを行い、急速に高齢化を進展している中国における「空巣高齢者」の生活現状および「空巣高齢者」の居住支援における施策動向や地域の福祉専門職による連携の実態を把握することにより、今後日・中の独居高齢者および高齢者夫婦のみ世帯への居住支援方策の検討などについて示唆を得ることを目的とする。